



やまつぼき

学校だよりNo.6
令和8年9月1日
佐倉市立下志津小学校
児童数 222名

備えるということ ～想定外を想定内にするイメージ～

校長 三星 典子



季節という言葉が、それまでの語感とは異なった感触をもつように私は感じています。一ひと昔から比べると、こんなにも様変わりした日本の夏…。自然界に起こる様々な異変に翻弄された夏…。

このたびの大雨により、大変な思いをされている皆様に、心よりお見舞い申し上げます。私は今、「子どもたちをお預かりする学校は、『安心、安全』な場所でなければならない」ことの重要度を、改めて自分に問うています。「安心」とは子どもたちが心の中に「信頼感覚」をもてるということ、そして「安全」は危険や災害が防止され、発生時には適切に対処することです。

もし学校で教育活動を展開していた際にこの大雨が降っていたら…下校や学校待機、引渡し、避難等の対応についての判断が必要になります。もちろん子どもたちの安全確保が最優先です。状況によっては、子どもたちや教職員が長時間、学校に待機する状況もあり得ます。こういった状況において、保護者の皆様への連絡手段はマチコミメールまたは伝言ダイヤルです。（学校から発信するマチコミメールの情報はこのような緊急時にこそ、その力を発揮するのだと考えます。発信した情報の早期確認について、保護者の皆様の御理解と御協力をお願いします。また大雨の際の判断基準について別記事で改めてお知らせいたします。御確認をお願いします。）

学校では様々な場面を想定して、子どもたちの「安全」を担保する「備え」を作っています。6月に都内の学校で起こった火災のありようを踏まえ、9月4日の避難訓練は校舎内の防火扉を体験する形で実施します。自助の力を高めるには「想定外を想定内にする」とを積み重ねていくことが大切なのだと考えています。

ところで、今春の引き渡し訓練実施後、学校だより5月号に私はこんな文章を寄稿しています。「本番、すなわち有事はないにこしたことはありません。しかし、自然災害はいつ起こるかわかりません。ぜひ年一回のこの機会に、災害発生時、御家族の状況がどうなるか様々な場合を想定すること、そしてそのことについて御家族で話し合い、共有していただきたいと思います。」平時にこそ、意識を高め、家族で共有し、「備え」しておくことが大切なのだと改めて思います。

— 今後も、例年に比して不安定な気象状況が予想されます。子どもたちの安全を確実に担保して、教育活動を進めて参ります。また保護者の皆様には、お子様に十分な水分（水筒）の準備、健康観察等、お子様の体調の把握を継続いただきたいと思います。体調不良の際には無理をしない、させないことを念頭に、子ども自身にも、成長の段階に応じて、自己管理の力をつけていきたいと思いますので、「気づき」につながるお声かけをよろしくお願いいたします。

9月1日は「防災の日」

9月1日は、「防災の日」です。1923年（大正12年）9月1日に起きた「関東大震災」の日に由来しています。

災害大国と呼ばれる日本。8月23日（日）早朝にも、佐倉市で茨城県南部を震源地とする大きな地震（佐倉市で震度4）が発生しましたが、日本は国土面積が世界の0.25%ほどしかないにもかかわらず、マグニチュード6以上の地震が発生する割合は18.5%と桁違いに自然災害の発生が多い国です。

さて、関東大震災では、明治以降の日本の地震で最大規模の被害を出した災害です。本地震のマグニチュードは、7.9程度、震度7とされています。

犠牲の9割は、地震後に発生した首都圏の火災、そして火災旋風が原因とされています。昼食時（午前11時58分）に起きた地震であったこと、能登半島付近を通過していた台風が重なり、火災が起きやすい、広がりやすい条件が整ってしまったことが挙げられます。

被災者数	190万人
死亡または行方不明者	10万5,000人
建物被害全壊	約10万9,000棟
建物被害全焼	約21万2,000棟

また、1959年9月、日本に上陸した伊勢湾台風の災害が、「防災の日」制定の決め手となったとされています。この台風は、規模が大きくなかったものの、台風被害として最も多くの犠牲者を出しました。その原因として堤防の崩壊などが指摘され、防災対策の見直しの機会の重要性が指摘され、過去の未曾有の災害の教訓から学び、不測の事態に備えるべく、1960年9月1日に「防災の日」が制定されました。

子どもたちには、過去の災害として終わらせず、昔は災害が起きた時に、災害への備えが十分でなかったため、たくさんの被害が出てしまったこと、そして、災害に対する万全な準備、備えをするために「防災の日」があることを伝えていきたいものです。

先日の千葉豪雨でも、多くの被害が発生しました。学校では、災害はいつ、どこで起こるか分からないという認識を持ち続け、今後も災害対応の避難訓練や防災・安全教育を充実させ、実施していきます。

非常災害時（台風・大雨等）の対応について

登校後に災害状況悪化（天候悪化等）の恐れがある場合、時間を早めたり遅らせたりして下校させる場合が想定されます。その場合は、下校時刻が決まりしだいマチコミメールにてお知らせします。ご家庭において、その時刻におけるお子様の受け入れが困難な場合は、速やかに学校までご一報ください。

また、災害の状況に応じて、児童を学校に待機させる場合がございます。以下の状況の場合には児童だけでの下校はさせず、保護者の皆様等のお迎えをお願いすることになります。

- （1）佐倉市及び周辺において非常災害が発生し、警戒レベル3『警報』以上の防災情報が出ている時（メール配信の有無に関わらず）
- （2）佐倉市及び周辺において非常災害が発生し、警戒レベル2『注意』の防災情報が出され、学校から「迎え依頼」のマチコミメールが配信された時

※情報発信は、原則マチコミメールですが、場合によっては「171 伝言ダイヤル」（043-487-8550）で行います。